

笠間市の友好都市②

～合気道の開祖：植芝盛平翁 生誕の地～

和歌山県

田 辺 市

和歌山県田辺市は、平成 17 年 5 月、1 市 2 町 2 村が合併して新「田辺市」となりました。紀伊半島の南西側、和歌山県の南部に位置し、総面積は約 1,026 k㎡で、和歌山県全体の約 22 パーセントを占め、近畿地方で最も広い市域を有しています。

西よりの海岸部に面した市街地を中心に、森林が大半を占める中山間地域が形成され、さらに 4 つの河川の流域に山村地域が広がっています。気候は、海岸部の温暖多雨の太平洋型気候から、山間地の寒暖の差が厳しい内陸型の気候まで広範囲に広がっています。

交通は、昨年 11 月に近畿自動車道紀勢線の南紀田辺インターチェンジまでが開通し、京阪神方面への利便性が格段に向上しています。また、海岸部に沿って J R 紀勢本線が通り、紀伊田辺駅から大阪市内へ約 2 時間、そして隣町の南紀白浜空港から東京まで約 1 時間の時間距離にあります。

産業では、温暖湿潤な気候を生かした果樹栽培が盛んで、中でも梅は全国でも有数の生産規模を誇り、生産と加工等を含めた梅産業は地域経済を支える大きな柱の一つになっています。また、海、山、川の美しい自然をはじめ、世界文化遺産に登録された「熊野古道」や「熊野本宮大社」に代表される歴史や文化、そして日本三美人の湯で知られる「龍神温泉」や日本最古の温泉といわれる「湯の峰温泉」などの豊かな自然や地域資源があり、これらの地域の特性を有効に生かしながら、『自然と歴史を生かした新地方都市 田辺』の創造に向けて取り組んでいます。

植芝盛平翁とのかかわり

合気道の開祖：植芝盛平翁は、明治 16 年（1883 年）12 月 14 日、現在の田辺市に生を受けました。旧田辺市では、昭和 44 年（1969 年）、植芝盛平翁に名誉市民の称号を贈り、その偉業をたたえとともに、昭和 63 年（1988 年）に「植芝盛平翁顕彰会」を組織し、国際合気道大会の招致・開催をはじめ、様々な顕彰事業に取り組むなど、植芝盛平翁の偉業と翁誕生の地「田辺市」を国内外に発信する活動を続けています。

田辺市（たなべし）のデータ

- 面積…………… 1,026.77 k㎡
- 人口…………… 83,299 人（平成 20 年 3 月末現在）
- 世帯数…………… 35,011 世帯（平成 20 年 3 月末現在）
- 平成 20 年度一般会計当初予算… 397 億 8,900 万円
- 合併による市制施行日…………… 平成 17 年 5 月 1 日



【市章の由来】

この市章は、大正 10 年に図案を懸賞募集し、田辺町章として選定したものを旧田辺市が引き継いできたものです。中央部は、田辺の「田」を表し、輝く星座のごとく田辺市の将来がますます発展することを象徴しています。



ナシナホトラスト運動見舞の地「天神崎」



熊野の菩提寺「高山寺」



南紀梅と梅干し



川海温泉「千人風呂」



湯の峰温泉「つば湯」



田辺祭り（熊野神社例大祭）